



平成 18 年 8 月 4 日

各 位

会 社 名 小野薬品工業株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 是金 俊治  
コード番号 4528 東証・大証 第 1 部  
問 合 せ 先 広 報 室 長 森本 公也  
( TEL 06-6263-5670 )

平成 19 年 3 月期中間期および通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、本年 5 月 15 日に発表しました平成 19 年 3 月期中間期および通期業績予想を下記のとおり修正します。

1. 連結業績予想

中間期

( 単位：百万円、% )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	70,600	27,400	28,800	17,800
今回修正予想(B)	68,800	25,800	27,200	16,900
増減額(B - A)	1,800	1,600	1,600	900
増減率	2.5%	5.8%	5.6%	5.1%
前期実績	73,948	31,553	33,093	20,269

通期

( 単位：百万円、% )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	144,200	54,100	56,300	35,100
今回修正予想(B)	140,500	50,800	53,000	33,100
増減額(B - A)	3,700	3,300	3,300	2,000
増減率	2.6%	6.1%	5.9%	5.7%
前期実績	148,671	56,936	59,245	36,146

## 2. 個別業績予想

中間期

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	69,900	27,000	28,300	17,700
今回修正予想(B)	68,100	25,400	26,700	16,800
増減額(B - A)	1,800	1,600	1,600	900
増減率	2.6%	5.9%	5.7%	5.1%
前期実績	73,225	31,207	32,589	20,102

通期

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	142,700	53,300	55,400	34,800
今回修正予想(B)	139,000	50,000	52,100	32,800
増減額(B - A)	3,700	3,300	3,300	2,000
増減率	2.6%	6.2%	6.0%	5.7%
前期実績	147,126	56,180	58,364	35,829

## 3. 修正の理由(連結決算)

当初、今年度通期の売上高は、前期比 3.0%の1,442億円を見込んでおりましたが、当第1四半期の売上高は、平成18年4月の薬価基準の引き下げ(当社:7%強)の影響に加え、前年同期の売上増加要因であった花粉症流行の反動や、後発品の影響を予想以上に受けたことなどにより、前年同期比 8.0%の365億円となりました。今後とも医療費全体を抑制する諸施策が一層浸透するなか、後発品の影響がさらに拡大する可能性があることから、通期の売上高を前期比 5.5%の1,405億円に修正します。

営業利益、経常利益につきましては、売上高の減少に伴い、当初計画に比べ、中間期で16億円、年間で33億円、それぞれ減少幅が大きくなり、また、当期純利益につきましても、同様に、中間期で9億円、年間で20億円、減少幅が大きくなるものと見込んでいます。

業績予想の修正に至った背景は以下のとおりです。

\*平成18年4月の薬価改定における当社の薬価基準引き下げの影響は業界平均(6.7%)を上回る7.0%強(約100億円)と大きなものとなりました。

\*この薬価基準引き下げの影響を、末梢循環障害治療剤「オパルモン錠」、気管支喘息(小児)治療剤「オンドライシロップ」、全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害治療剤「注射用エラスポール」など主要製品の市場拡大や糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」における潜在市場の開拓等によって補うというのが今年度計画の基本的な考え方です。

\* かしながら、医療費全体を抑制するための後発品の使用促進策の実施、浸透により、昨年7月以降に後発品が上市されたキネダック錠を始め、DPC(診断群分類別包括評価)導入施設の拡大に伴う急性疾患に対する注射剤への後発品の影響、さらには処方箋様式の変更に伴う慢性疾患に対する内服薬への後発品の影響などを考慮しなければならず、その影響額を当初、年間で50億円程度と想定しておりました。

\*\*\*\*\*

\* 第1四半期は、オパルモン錠やオノンドライシロップ、注射用エラスポールについては積極的な情報提供活動の結果、市場拡大が進み、薬価引き下げの影響を吸収し、前年同期比でそれぞれ7%、20%、2%と伸びましたが、薬価改定で12.5%の引き下げを受け、なお且つ昨年7月以降、後発品が上市されているキネダック錠は、当初の想定以上に後発品の影響を受け、前年同期比21%のマイナスとなりました。また、注射用カタクロットや注射用プロスタンディンを始め、すでに後発品が上市されている注射剤も当初の想定以上に後発品の影響を受けました。

\* 第2四半期以降も主要製品を中心に活動入力を強化し、市場拡大による売上増で薬価改定の影響を補えるよう努力しますが、一方で後発品使用促進策など医療費抑制政策の進捗次第で後発品の影響がさらに拡大する可能性もあり、その影響額を当初の年間50億円程度から80億円程度に積み増しました。その結果、当初の業績見込みを中間期、年間ともに修正することにいたしました。

\* なお、主要製品に対する活動の成果は下半期により大きく出ることを想定し、上期計画と下期計画の売上ウエイトを49:51としておりますこと、また、当第1四半期に前年同期の売上増加要因であった花粉症流行の反動や前年同期にあった海外特許料収入がなかったことなどにより、第1四半期における減収幅(前年同期比8.0%)は第2四半期以降、徐々に縮小するものと考えております。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上